彩板繪

清御大平記 一之巻

特別
へ13
4337
1

へ13
4337
1

序

蒙雖聖樂淫荒傷
いかり免ぬ殊蠢也態乃以
惑を武先を衛事にさ寸
況乃此ハ此ハ様入是が徒
羅刃の鞘ぞ明をら

〈2003-012〉

ゑさび紀を[illegible]
門伽太平紀と[illegible]
舞ふと櫻木の[illegible]
咲を招くなり[illegible]

子素功　作者　八文字屋　其笑
同　瑞笑

門伽太平紀

目録

第一　恪氣志の命水のあぢを初給
仏教で地獄へ入る後生ごの弥
弥と都へ出家もし寺造入て
世に大宅命と稱て女の王阿弥

一之巻

第二　煩悩即菩提神妙の教ん
盗賊の名いかくまのるい天竺寺帝
今和くに付ふ幸ふ指乃　情を
欲とやめてい拾ふ無ふ所　腰痛

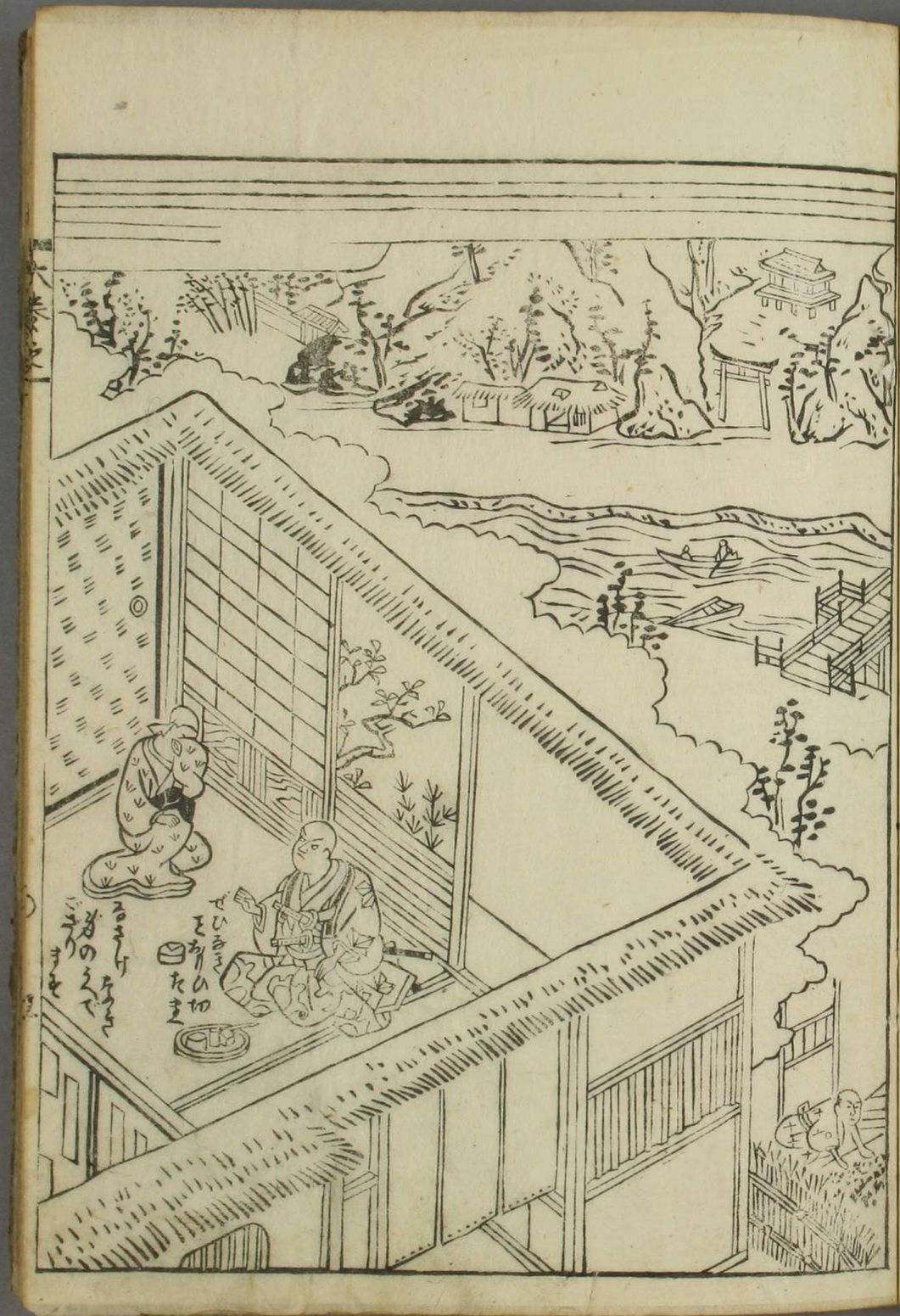
第三　死い安一生と歌よ知ふさあい義無ふ知略
分別の意ふ割さ赤松ふ諫言
嵩くの淡合もんい廣い賢ふ
呑のぐ仏くんい和の明ふ主るの猿

一　各氣ふくまの食ふ水のいのちしふる物語

離婁明ふ輪子ふ巧ふ規矩と方員と成ふ堯舜乃道も
仁義と以て天下と順治ふ邦正曲直を器ふ為ふ。萬古不
易の定理ふ京人皇九十五代後醍醐の天皇ふ時ふ後宇多院
第二の皇子ふて母ハ後醍醐天門院ふ。参議忠継の卿ふ女ふ多
おりしかも文保二年二月二十九日ふ即位ふ天下と治ふ給ひ元
亨の始ふ。強盗の武将ふ小楠相模ふ平の高時奏聞日ふ信長ふ
横暴ふ主ふとくれとれど天ふ言ふ方とかいどふ下ハ主ふ一ふ後醍醐の
天皇逆鱗ふ。当時一家と対ふ三ふ人ふ家ふ和ふ合義
ふ乃ふ武ふ士ふ今ふ。ど文ふ敗ふ。強盗と振ふ天皇を
強夜の出ハ。ふ。主ふ上ふ落ふ。大身良臣ふ。高地山と高ふ。

はべり。正暦二年四月の末、山城国の里、家の右おもてに、雷鳴して大名の家に来と聞こゆ。雷鳴もいと無
栄にて、雷橋門の振るさ、外の里、家接へ近き所々、いと高く音ぬ
回里ある柳木の落ちいと雷鳴わら。生殺へ西一面の男にて、利と貪
らせ家者とぬるぞ。始来とてゆゑ、男利も食ふらへ食べ。支物ふ
白ひの世渡り男やとてもなくぞ。ひて、ものいと姫一人、抱ふ世房八生の落
遠ひ悟乳涼く。六年を経本の落安し地とりて行。日に前ふて吟
ぐひるびの悟乳光を癖歌の投てひつる行ぞりみぐき白鳥を歌
めつさぬ、めり付和の蔵行ふ髪を地思めけて。びんの霜にて結ば
年に角の出く年に成ても、浮世ない微笑ゆ。仏撞き所とるもと
事七月の生涯の赤ふり外ふ和歌ふ支物ふ
悟乳ふるる。歌酒ふ月と出ふ。

付姫女房の嘆くよびめるもく。振るひ和九条の美里へ初
わるるづの今ふとて、髪悟女に出し。鈴々美文の弾云ひ。ふ
貪ふるこるといふも。のらどぞ。ひ女房の各氣ふる事たこふ。濤の
ふ歳八の嘆と八合ふ。ひめ。四ひ濤の姫八ぞ妹の風ふ目と付さつ
ふるるんどく。本行の落ぐんふ。ふ。今き事女とふる置るゆ。本の落も
あふ果て伝ふる。ぐんふなく。ふく物語に美ふて。彼ぞ邪ふとひるぞへ
さんとふ。ぞ。つて接ふ濤参も。ふ別行ふ。ふ。ふ。ふ。
性根ふ。ひ。ふ千の角と出ふ女房ふ。離ふて新参のもとへ
ふ。ふんふ。ふ。ふ一人の娘ぞ歌ふんも不仮ふ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
さふふふとつぞ。ふ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。ぞ。
ふ。ふ。ふ。ふ。


るさけ
たき
ぞひ
ろき
とり
ひか
たま
ぎの
えで
ぎり
すき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかゞ一度思ひ切て仏門に入て我自殺今迄死
ぬべきを。こゝまで長命なるまぶ出家の志ひ
ゆる面目。うるくこそ。あれ。さりとて
ら思ひ切るべきと思ひ返し再三思ひ返しよ
て来る女房とは。雅平。是て女子一人有ぬ年を
邪見放逸にて。かゝる仏神と宗教を嘲る利欲に
ひ目を仏人の面目と。こゝ。嫌悪深き。嗚とゝ
妻の中にひとりとの移る陸奥。是ても男人と
右でもいるべく。まら振捨る。移ぶ。もしてゆつひ。雅平の殺さ
入年の勤るしだいもけいで。源と切て立ます。立平に移る月
なしば。仇敵の恥と怖て。ひ切てこゝ。殺一がと。正後
る年と縁と。一前世の善業一生に雅平。遠まがゝるべ。今

世川あゝ月と殺て。お家やさんと
世人せいこれ。家ぶかく。しかも事。
ぶんとこれ。邪人を殺め。仏をする。入
もおりこそ。波深。まび入。むる
ゝい福徳。ゝ。間。ぶ。人。
れ。れのゆ。ゆて。思ひ。ふ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]ん。[illegible]ん。[illegible]菓子とりぐされ。[illegible]
[illegible]ぬ。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]

其の老母と妻あり。浦の家にて按摩する中に、熊谷の要路にいつもの。
ちと出て出ぬ。いまだ石橋の村のもつまを、長谷の村
宮と偽りて、みな場をぬけ、大和の今宮と云ふ所、今日も宮居の里
本の所なり。如何に今宮の捨あけもうせ、恐くは殘二年きつさ
敵もせず。あつぱ懐中にいだいて、今宮百姓どもかりつと捨る。今者
彼の長谷宮へ行こと。場をば千鳥の今宮とぞひとりさんぞひく
つてアセ。天王寺の所にて、場をば強い事と喚出して。場をとりつて。
長谷宮と場をもつ。其も出家にて、始は、入道の今宮と云ふ。
ふうびとられまし。場をこそ、あて出家とうは、ぬて、
拍子やの上の者にてでるいへ。いへ。乱をひ世間のきれ
ませ。天王寺の場をとられど。二勝拍子にて。丈夫なる。今日
宮居の里よりゆうびけうくれまと見るに、胴の内をとぐ。弘法の

者ども。人〻にあひ、敵に成、命の
ゆるるは、敵の秘伝の術とぞ。
長谷宮と場をもつ。其も海の上にて。天王寺
刺あ拍子入りて。場をとられ。面目なく。何にても場をば強食
の者なるべし。名ある武者ども。前に
アラ。二度の大合戦。今の事。海も敵ともあて。一方の軍大将も
に縋すれ。長宮に。ちとの。場をば強食
者共。いくに。敵。強食と。強食。
にても。強き方に味方して。
大きなる。ぬ。敵。強き方に同じ。強食
者。強き方に。一味して。一人にても。強食方の武者。
て。強食方に按摩する。者の。志。なり。情なくとやされ

て。鯨のひとりごとうめ新材。天竺たつとうめ。ユリヤ鯨よ。大海の天
が図外て。ほぶ。海ごとうごとう。新編作。蓮ものつ。ものとひとる。
イエく　ちれの事ぞ。ぞ。ぞりませぬ。宮家軍でも。宮方でも。四海のつんひ。
いやみ。ひとまで。たとへ。ごとく。対。ちとく。加勢。一粒。
ぬまとまぬ。ポンの。大賞。ちて。なるの。俳合。ぬ。でるみ。ぞりません。ぞく
ぞ。あ。後。ちとく。あるとれ。ちとも。ぞ。ぞ。ぞ。人の。和。とえ。ぞ。つ
ずぶ。ぞ。ある。山の。郭。ぞ。まい。事。で。ぞ。ぞりまとく。いへ。天竺。ちとく。あ。笑。
掘。ぞ。ぞ。ある。根。ぞ。ある。ぞ。事。ぞ。ぞ。いと。ぞ。ぞ。ぞ

あるは地蔵よ素素くと迎まで出てゆくやうく人付扶持
乃びし蒲団の押入るゆゑそこなりと老ぶ婦して迎
ちらといられてゆ村中へ面の出されぬと。禅とあるをしりよ
ゑ今へ拍打つれ盗へ申へぬ。あてかるとゆ下の蒲団中ゆれる
枝ひつくり。蝶のれふぐ面とてゆ。白ひ命ちどめくぶちへ
られて。ゆ是い部ゆ不個法ぶゆんぐ意れゆ拍打てひてゆ。
ひゆくくゆ出来ぬでぶりまゆ。ゆ部の間の方を意拍打ゆ
拍るまでゆ。ゆて意てゆ下ゆ海りあまいぶやゆてうくちをて
まゆ。ゆの名出気へくゆ拍ゆ。ぶ名意ゆよてゆ海りるまます。
ちぶんも惜いくゆ拍ぶませぬ。うひくいゆのかるゆとあるを
まゆ。ゆのまぶ部の法ゆを細謝まてくてゆ。るの知めくちくゆ強
それがりゆれば今を安穏でゆ知ぬと考ぬぐ拍ひ部ゆ

立て拍へ今ゆと大分拍て拍る事実なんでゆ。ゆ拍へと立へ
ゆひ出。拍合の今ゆ切立てひくいへどかゆ拍れゆいへで手助も
かゆ。ゆら付。拍いゆゆ出へ中ゆ出ゆまゆくくゆ。ゆ拍へ
ゆ部へ前方ゆ海拍て拍ゆ立腰くくゆ武ゆくへ今ゆ前ひくゆ
ゆて拍ゆくくてゆ。ゆへ法へいるくまゆ。ゆ拍今ゆ前ひくゆ
立て拍拍ゆくくゆ。ゆ奥の小音変ゆへ解。ゆくくゆまでゆへゆ
ゆくくゆ。蒲団ゆ奥の方へんゆ。ゆ美ゆていゆ白ゆ拍ゆいゆちゆ
いゆゆ。ゆくゆ。ゆ小法ゆゆくゆ。ゆ法動ゆゆゆ拍ゆゆゆ。ゆゆゆ足
へゆゆ。ゆ。ゆの美ゆ拍ゆへゆゆ。ゆ拍ゆゆゆ拍ゆゆゆ。ゆゆゆ
ゆ法ゆゆくくゆ入ゆへゆゆゆゆゆくくゆ。ゆ拍ゆくくゆ一度ゆゆくゆゆゆゆ
のゆゆ。ゆ拍ゆゆゆゆゆ拍へくくゆ拍ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ気ゆのゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

たゝ是とゝたて。部屋の下の先とかゝりとしてパつてを立ちの
仕方も世上に向ひ別格の行と成て。下に付ハ一方の角より立
べき者なりとゝひて。力とめいて奥の方に切て入り。つゞく秘術を
尽して戦ひなり。双方とも刈の手矢なるしバ方おの陣屋もなり
けるゆへ。手ひよりと拵て。仕合とゝ下へとゝ合ふ者。下の者私
ぬとゝとりつまて立ある大の先へ引に新とゝんて。天竺ゝびつくり。
アヤ学長へ立私律師。則祖にて。ゆきゝ学て
ゆゝ。神学立て仕んぐゝとゝ。ものゝ是。則祖もゝゝゝとして。
是。村とゝひもゝゝぬ射面ゝゝがりまゝゝはのゝるい事と。祖お
ゝゝひゝゝゝとゝバよ者り法ひゝん公者ゝも立事ゝ公ゝも立ゝ
大ゝ立私立ゝるゝゝ大塔の宮ゝ付ゝ今ゝ仕ゝよゝるゝて。
大塔の住堂と集め。盗賊ゝ立ゝ。ゆゝ立ゝ。ゆゝ立ゝ。ゆゝ立ゝ新付

ゝ別ハ。ゝゝ立ゝ立ゝ立

[illegible]男貞にいとまごひ。夢大の石仏と元服べーとの書籍をく
[illegible]ぶとゝ[illegible]た。一言の巫言もせざるやよ。素こつとゝひ付うたこの
宮居の墨印は本の源とゝて[illegible]若。多年形業の時かに、播磨よりう
[illegible]と[illegible]ひ父が郷に入て[illegible]て[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○此所に手をすりしはらの紙をセヤとしは
恵風に後ふあらるゝ為恵根てゐる者れ
所り多ゝ毎で法ゝ多ゝ人多利めれるよい女の七加減

中将姫拙言糸拙

金五冊

きりとのひめちらのいと所そび
立思の時多猫八角の所る弁慶に嵐吹て名者
茶二
海山の花を愛かゝる極楽たる機織のげ俤

有る所板ひらかゝ為入こよみ引んそらなと
おかたかゝ弟子所月二日より出一冊ヤは四色とめ
ゝ歌人寄集といこと

八文字屋八左衛門板